

B型肝炎 予防接種について

対象となる病気について

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

※予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないことがあります。

接種の方法

対象者……生後1歳に至るまでの間にある者

標準的な接種期間……生後2月から接種開始、27日以上の間隔で2回接種した後、第1回目の接種から139日以上の間隔をおいて、1回接種する。

ワクチンの副反応

接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。注射したところだけでなく、熱が出たり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。いつもより機嫌が悪かったり、ぐずったり、眠そうにしたりすることがあります。極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳髄膜炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。